

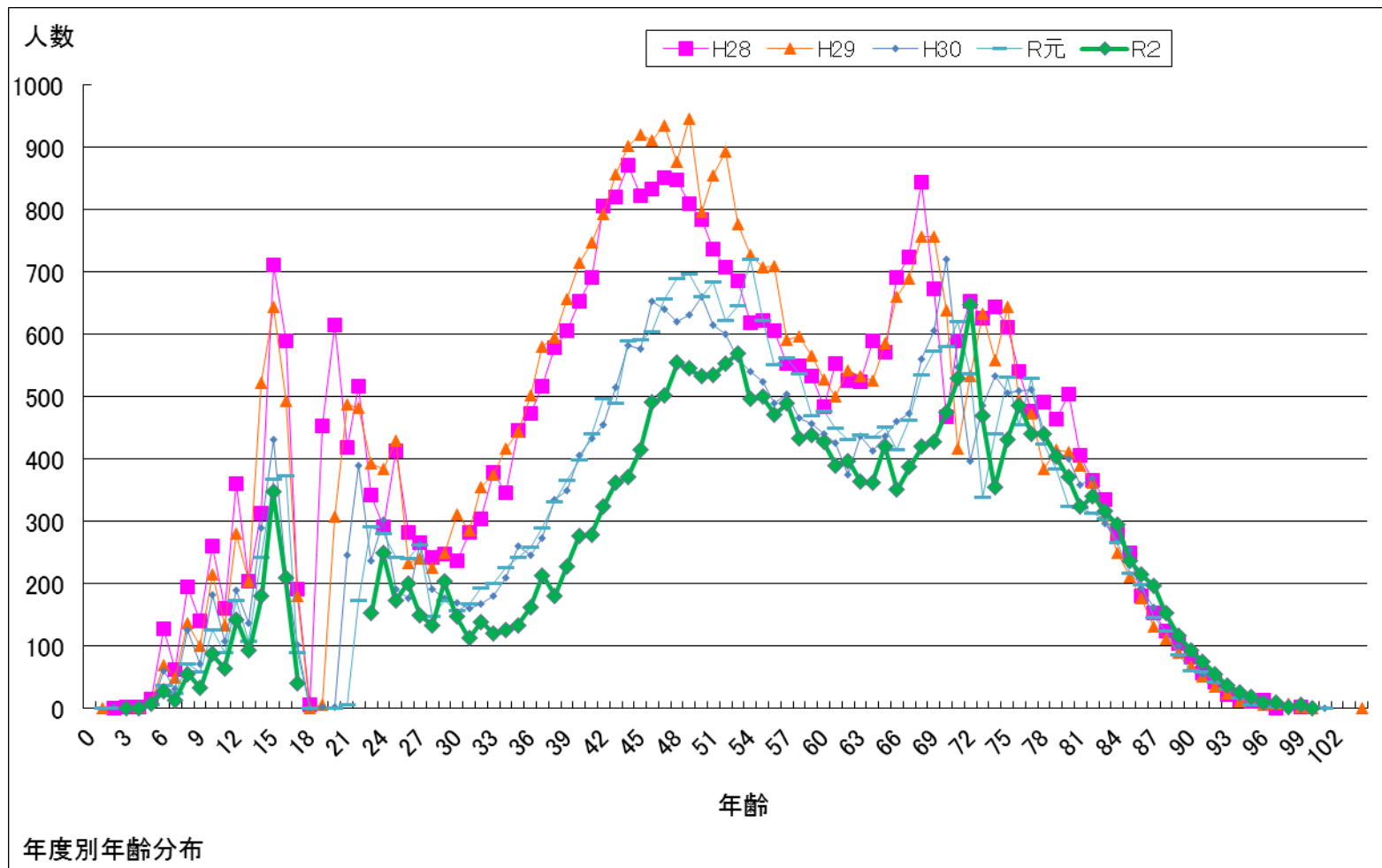
大気汚染医療費助成制度の患者データ年度推移

平成 28 年度から令和 2 年度の 5 年間の患者データについて、各項目別に年度毎の結果を比較した。

1 年齢分布

(1) 各年齢の年度別患者数

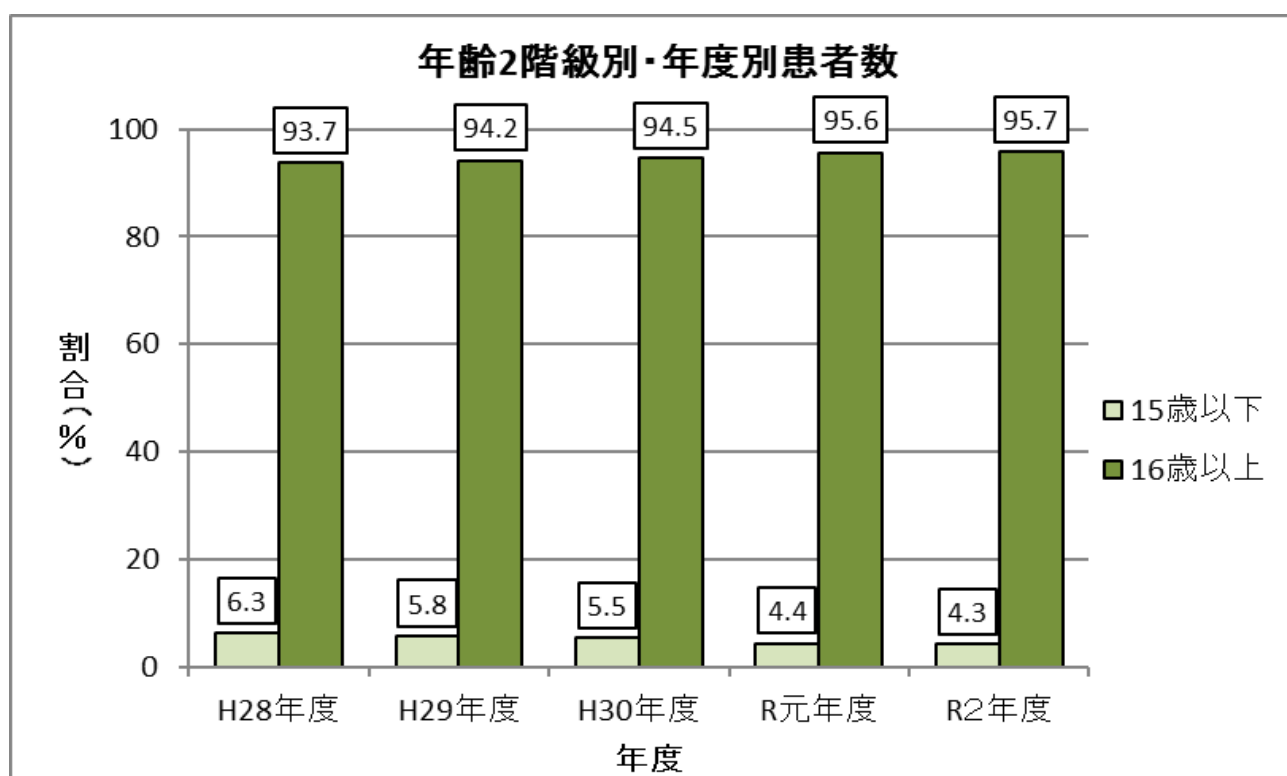
2



年度別年齢分布

(2) 年度別の年齢階級別患者数割合

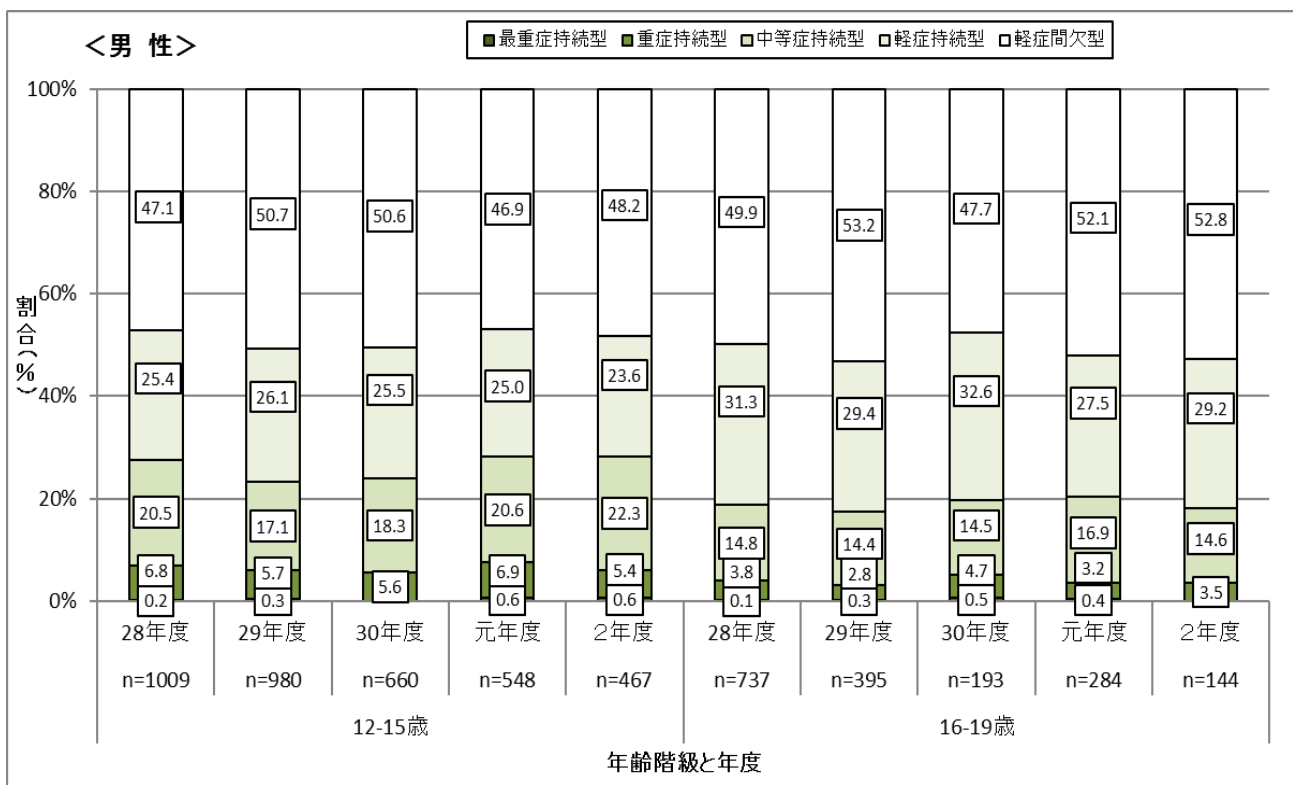
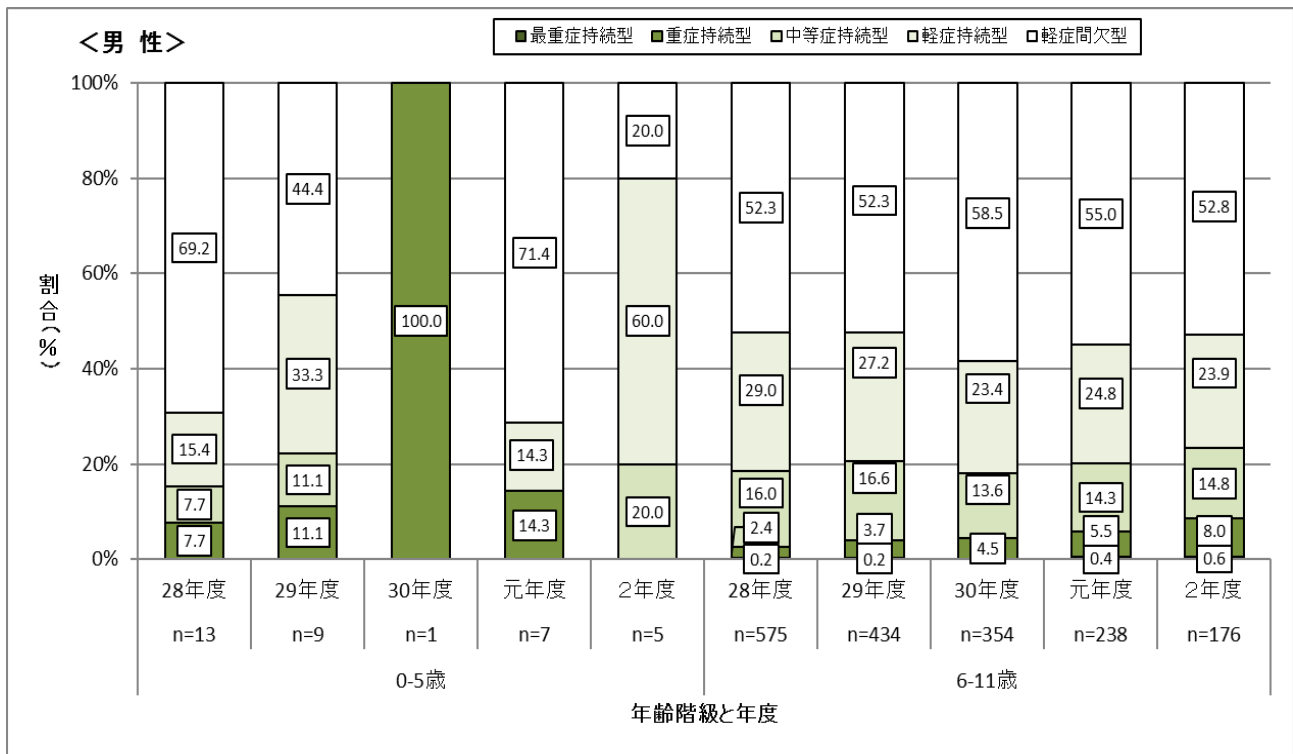
	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
0-1歳	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%
2-5歳	21	0.1%	14	0.0%	7	0.0%	11	0.0%	10	0.0%
6-11歳	948	2.3%	708	1.7%	580	1.9%	407	1.4%	284	1.1%
12-15歳	1591	3.9%	1650	4.0%	1047	3.5%	891	3.0%	763	3.1%
16-19歳	1240	3.0%	682	1.7%	321	1.1%	464	1.6%	250	1.0%
20-39歳	7812	19.2%	7962	19.5%	4533	15.1%	4253	14.3%	2829	11.4%
40-59歳	14408	35.4%	15836	38.8%	10936	36.5%	11736	39.4%	9147	36.9%
60-74歳	9166	22.5%	8868	21.7%	7320	24.4%	7187	24.1%	6427	25.9%
75歳以上	5538	13.6%	5090	12.5%	5226	17.4%	4869	16.3%	5112	20.6%
総計	40724		40811		29970		29819		24822	

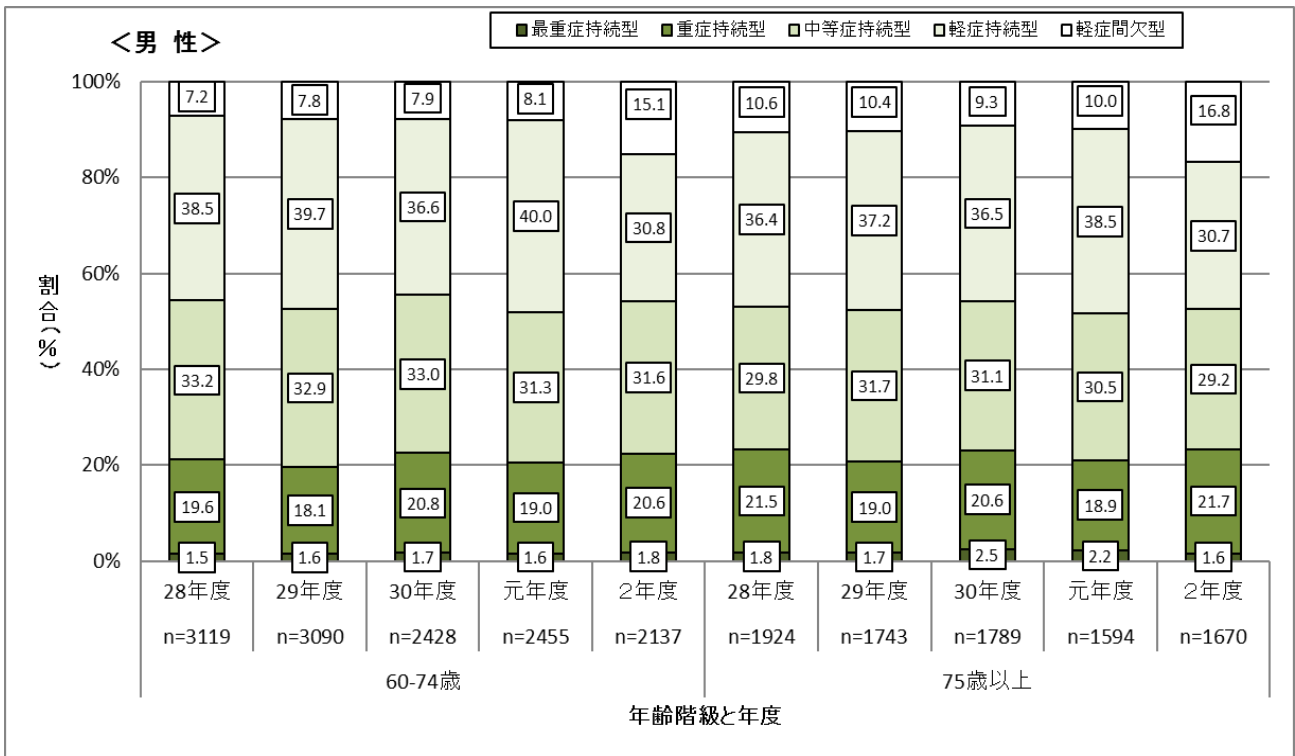
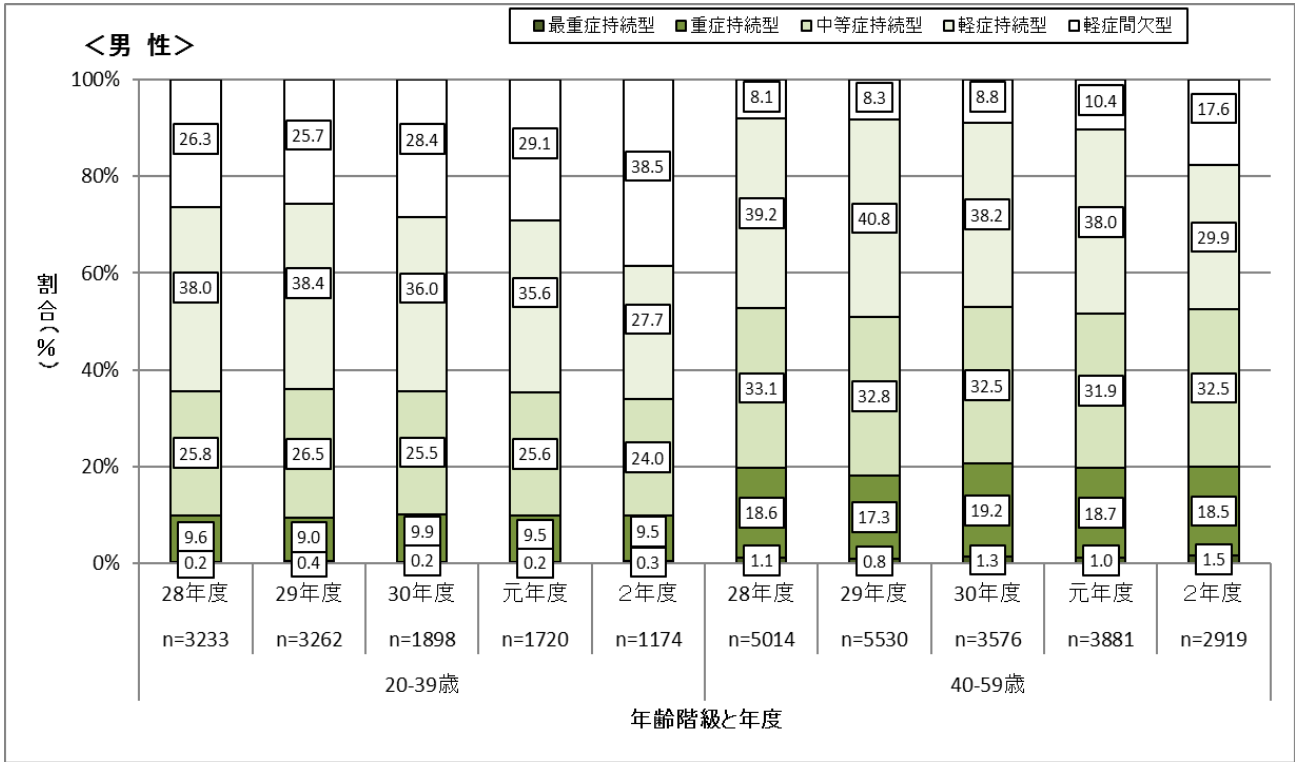


40歳以上の割合が高くなっている。一方で、15歳以下の割合は減少傾向である。

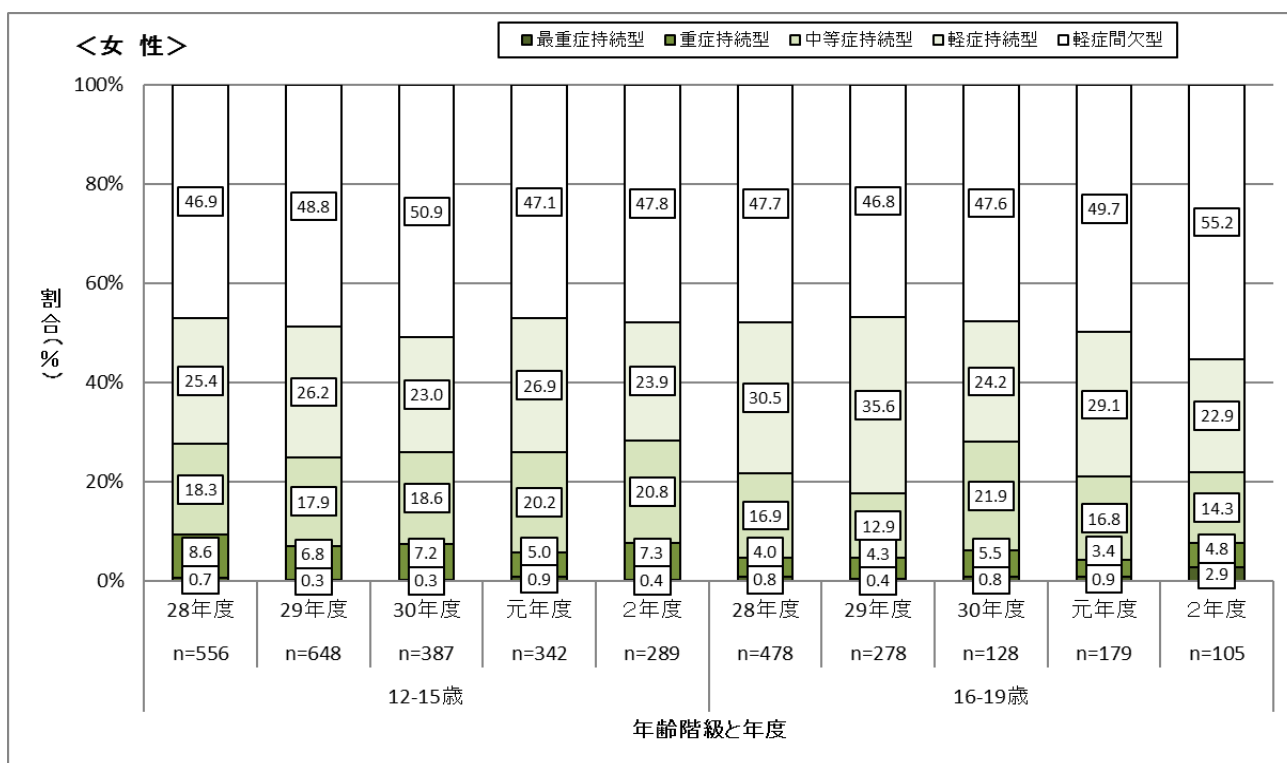
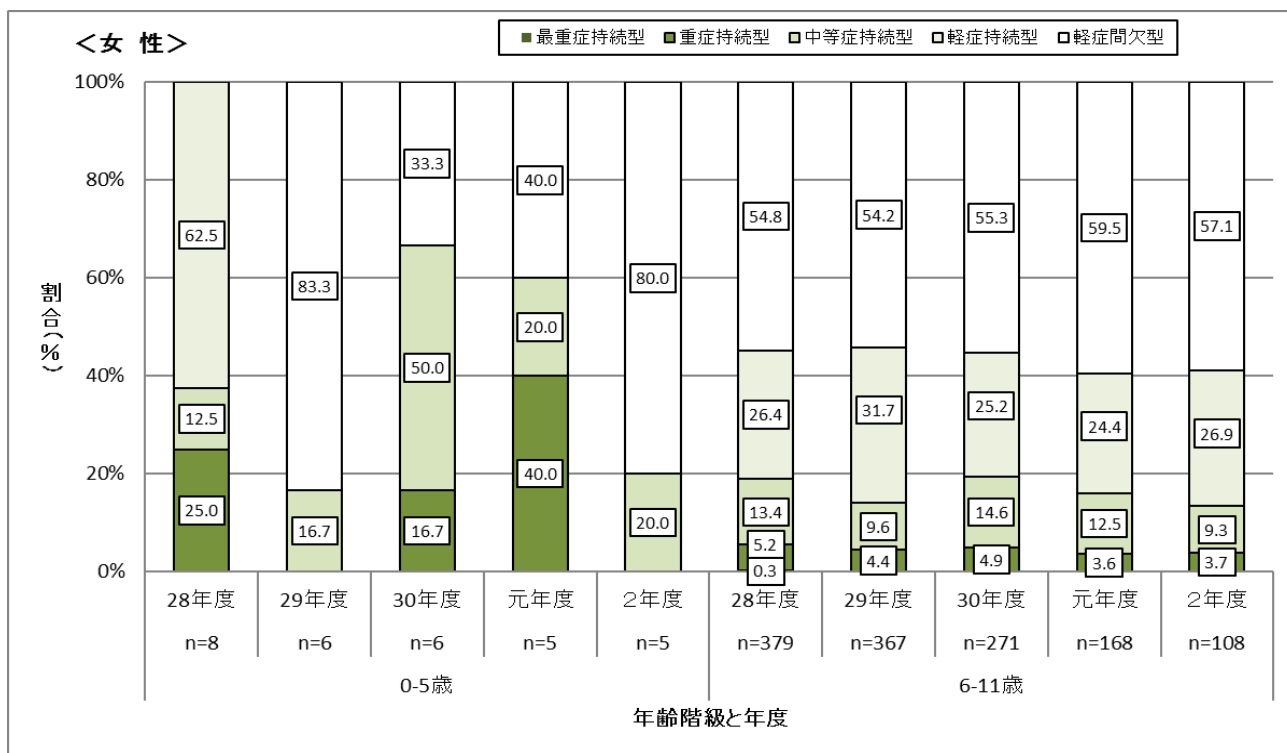
2 重症度分類

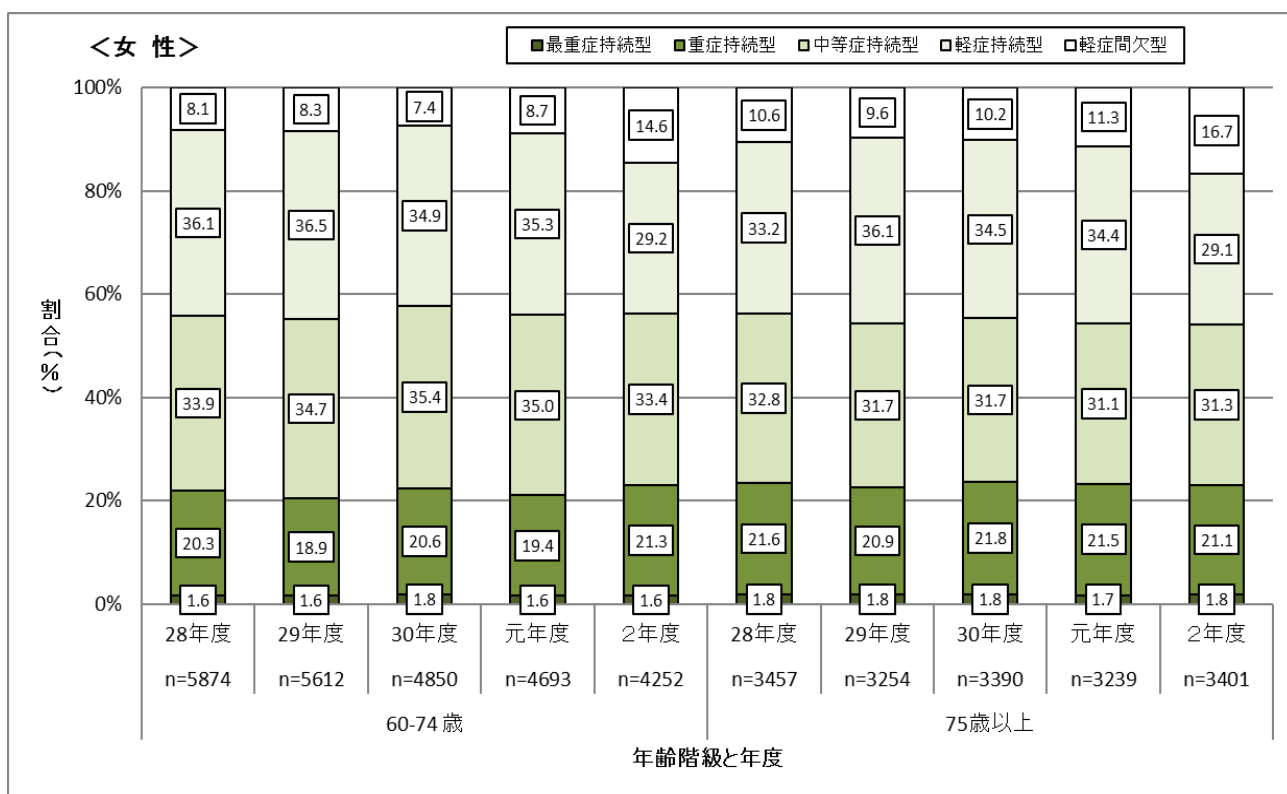
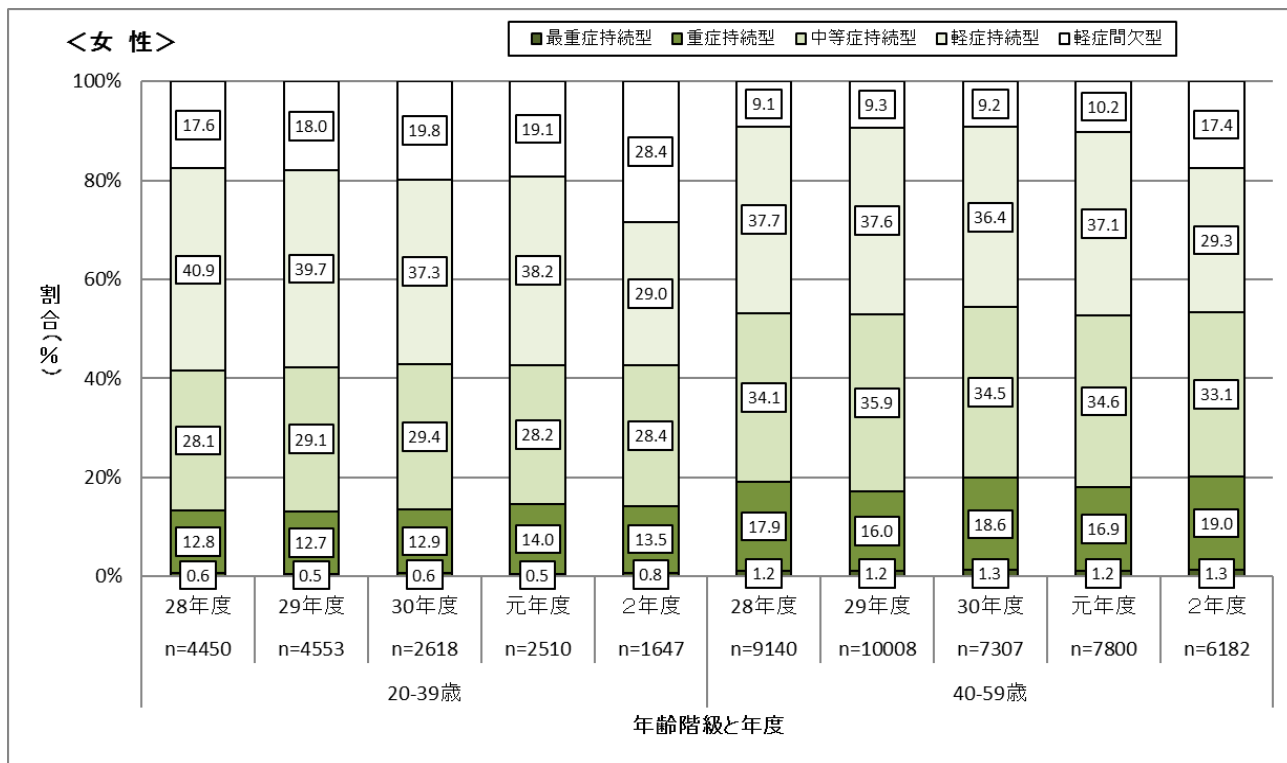
(1) 年齢階級別<男性>





(2) 年齢階級別<女性>





年度別年齢階級別の重症度分布について、H28年度以降、男女ともに大きな変化はなく、ほぼ横ばいに推移している。(n数が少数の「0-5歳」の階層を除く)

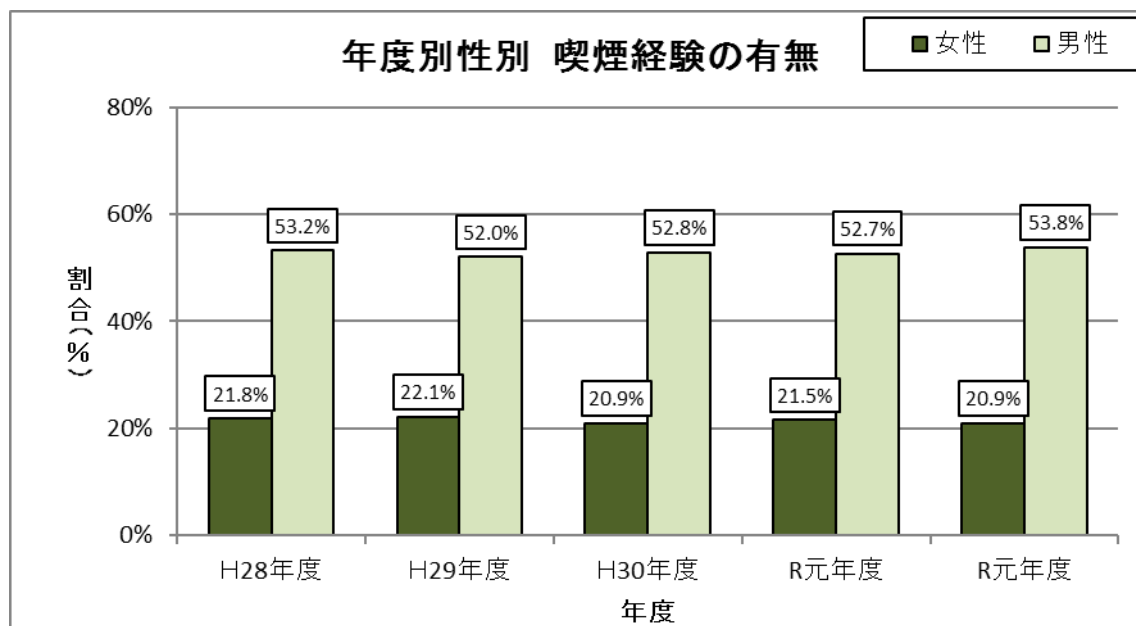
3 喫煙

(1) 能動喫煙

a 全体

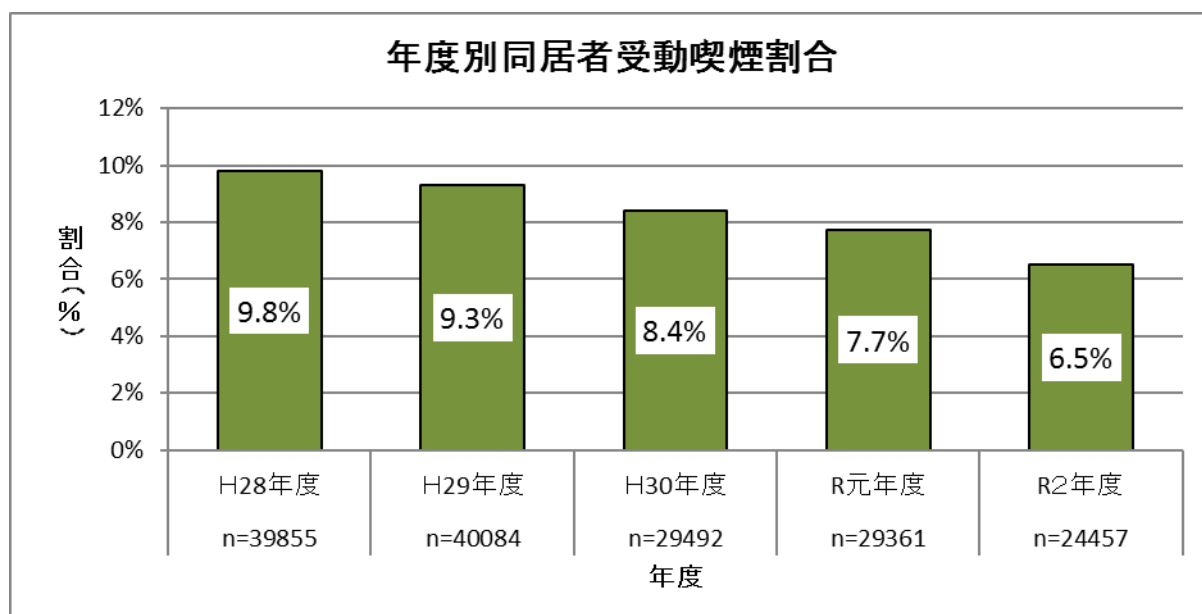
	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
喫煙経験あり	33.3%	33.0%	31.9%	32.3%	32.0%

b 男女別

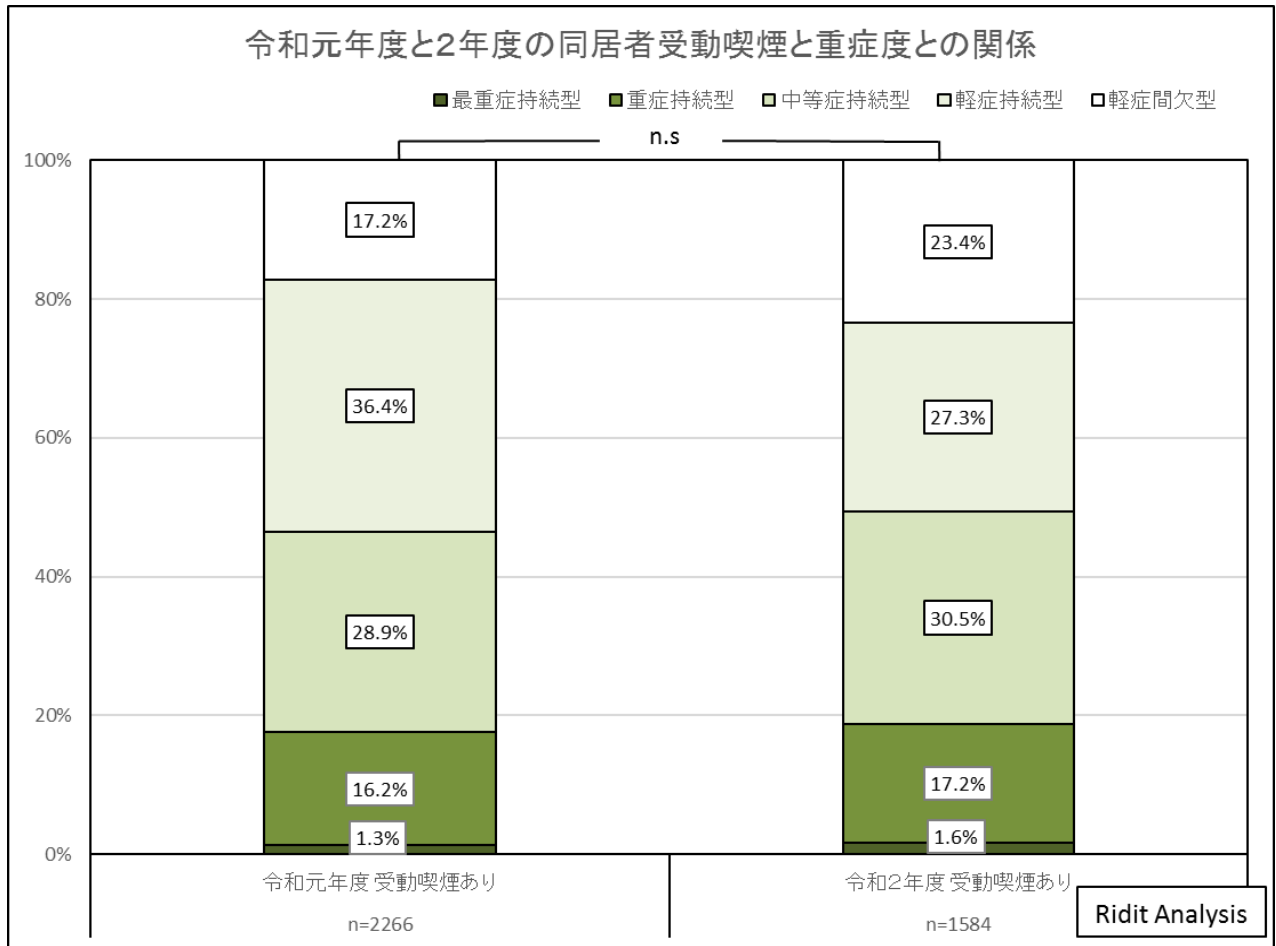


(2) 受動喫煙

同居者の受動喫煙(主治医診療報告書より)

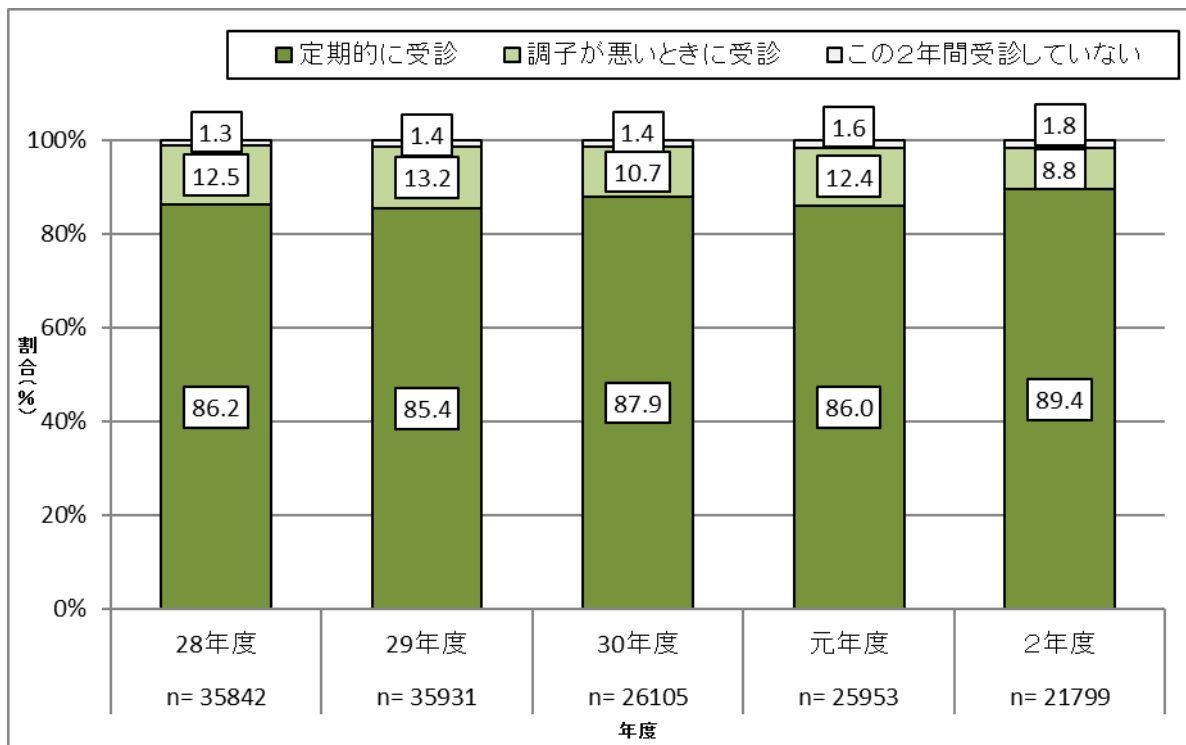


近年、同居者受動喫煙割合は減少傾向にある。

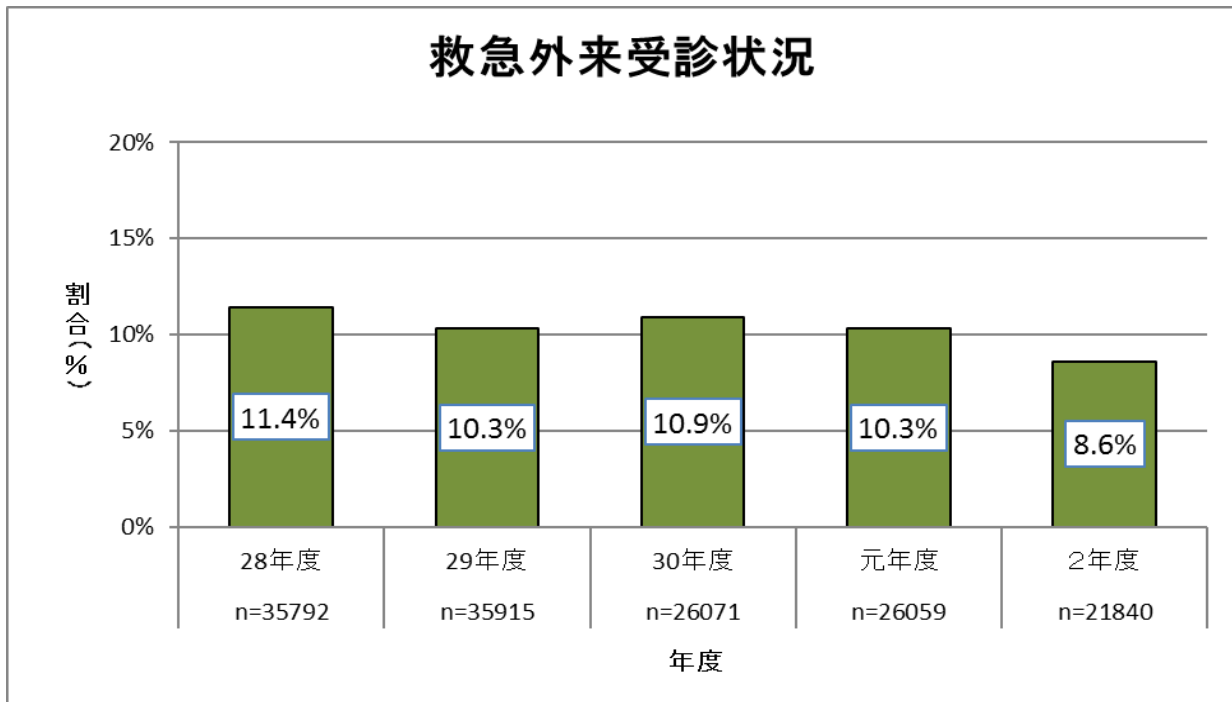


同居者の受動喫煙のある方について、令和元年度と2年度との重症度割合でリジット解析を行った結果、重症度での有意な差は認められなかった。

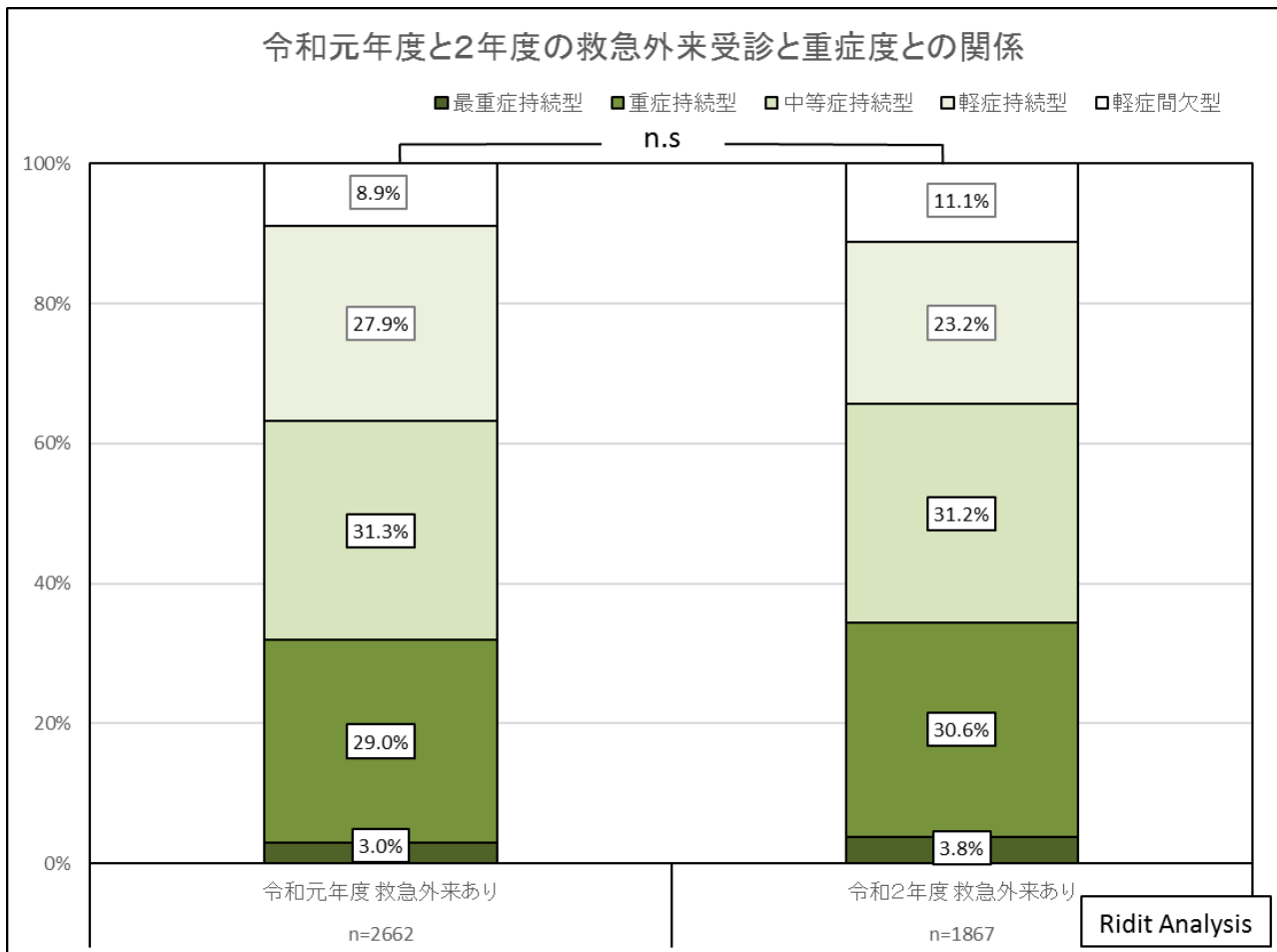
4 受診状況



5 救急外来受診状況

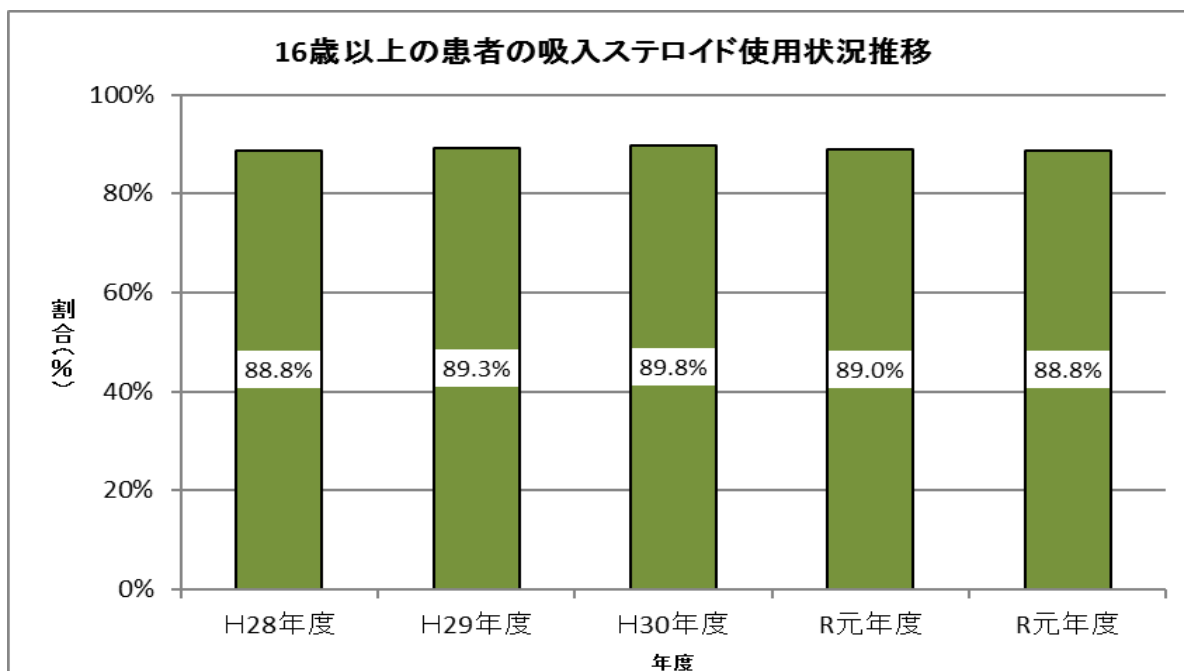
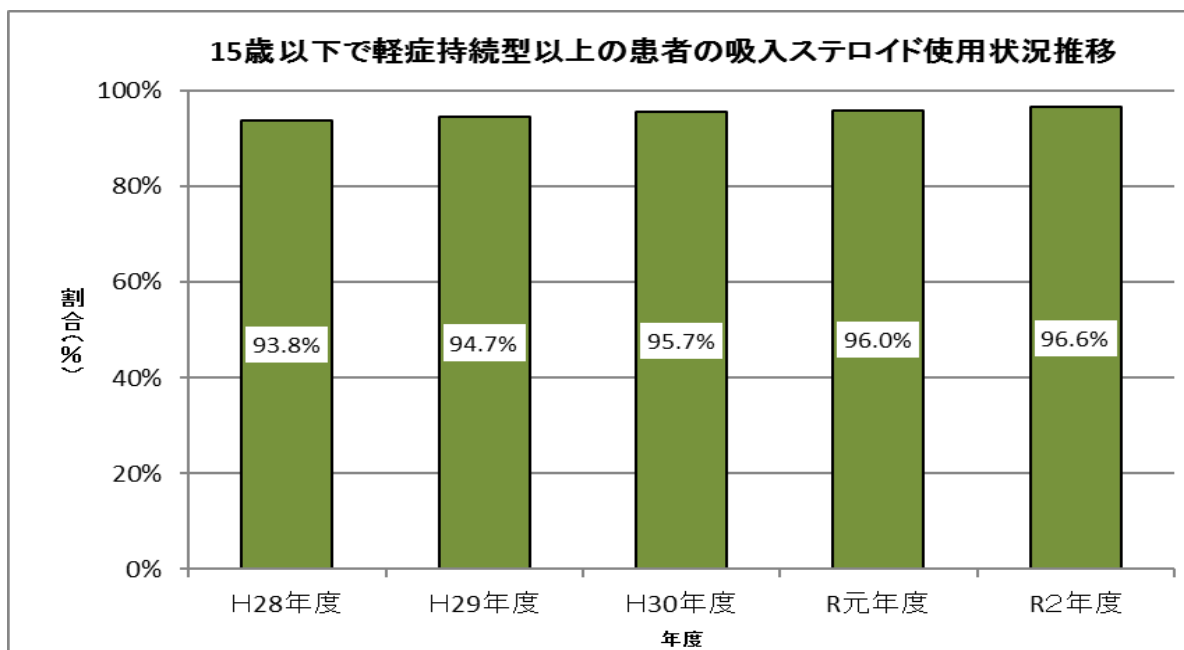


救急外来受診の割合は、令和2年に減少した。

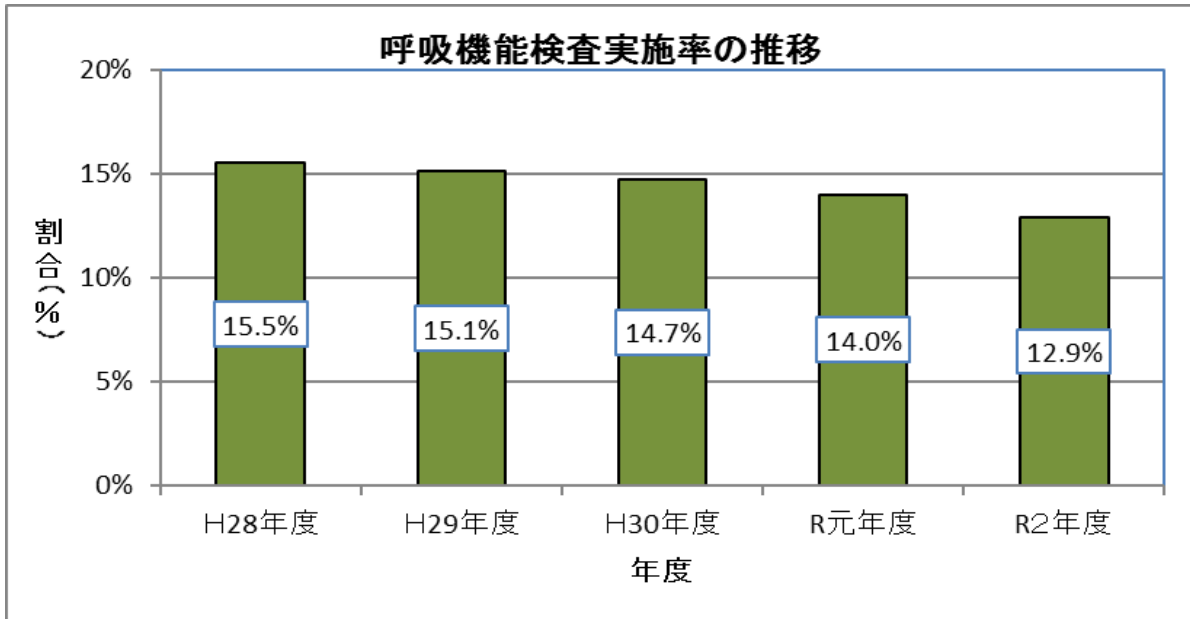


救急外来を受診した方について、令和元年度と2年度との重症度割合でリジット解析を行った結果、重症度での有意な差は認められなかった。

6. 治療薬（吸入ステロイド薬）



7. 呼吸機能検査実施率の推移



今後も喘息の状態を把握することの重要性を普及啓発する必要がある。